

足守リビング

足守遊学舎と連携した新たな地域おこし

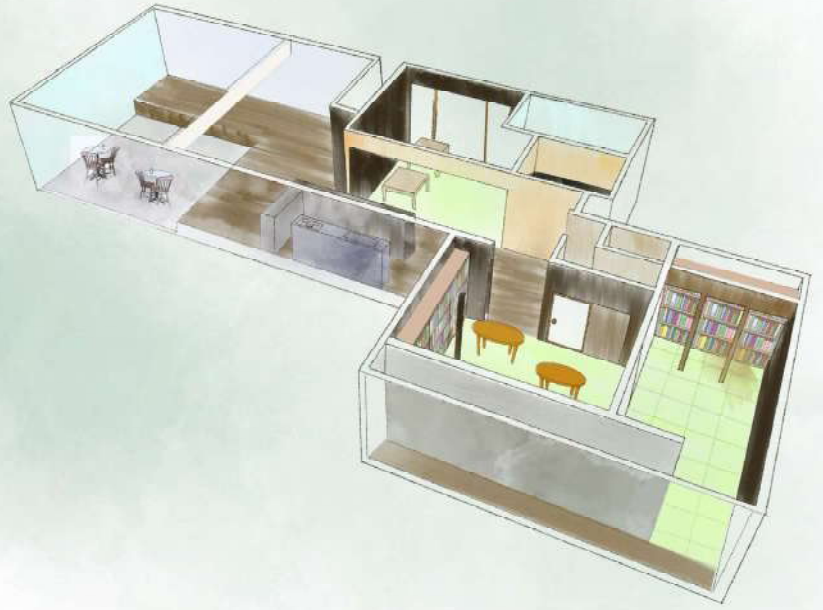
01 歴史と暮らしが交差する街、足守

足守の課題

足守は伝統的な古い街並みが残り、観光に適した場所であるが、駅からの距離が遠いことや、バスが通っていないことなど交通の便の悪さから余り有名になっていないという側面がある。また、若者が足守で過ごせる場所が少なく、他の地域に行くことで足守に対する思いが少なくなっているように感じる。また少子高齢化の波に襲われており、空き家の増加や人口減少の課題が年々顕著に見えてきている。

足守の良さ

足守障子屋敷の建物など数多くの歴史的建造物が残り、江戸の暮らしを今に伝える貴重な場所である。加えて、他の観光地のように人であふれることもなく、ゆったりと観光できるのも魅力の一つ。現在では足守プラザやレンタルスペース旭など歴史的建造物を活用した地域おこしや、スタンプラリー、葦の森展など地域内外からの人を呼び込み、足守を盛り上げていこうという動きがある。



02 これからの足守に必要なことは

これからの足守に必要なことはこの場所に限らず、若者がこの場所に定住し、歴史文化を継承していける場を作ることだと考える。どんなに頑張っても歴史を守ろうとしても後継となる若者がいなければいつかは廃れてしまう。そうならないために、地域内外の子どもたち、若者がこの街に愛着を持ち、留まりたいと思えるような施設を提案する。



02 現存家屋を極力生かした改装を

対象住家は空き家とは思えないほど状態が良く、建物自体のデザインが綺麗だと感じた。特に、風呂やダイニングキッチンには普通の住宅よりも広く開放的で、周囲を取り囲む緑は庭の景色を切り取り心地よい空間となっていた。そもそもの住宅が素晴らしいため、コストをけず少しの工夫で足守の街を盛り上げることができる建物を設計することが可能だ。



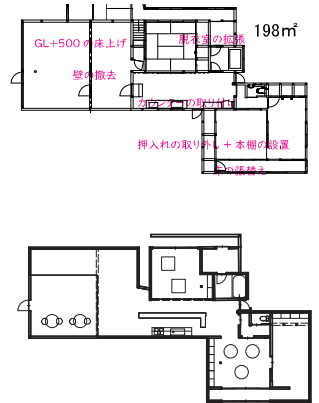
03 平面図 SCALE=1/100

この建物は後述の通り足守遊学舎の「遊、学、食」の三つの部分に連動して作られているが、大きなテーマとしては本家を読むということにある。そのため各部屋には本棚を配置し、その上でさまざまな機能を付け足している。



04 改装前と比較

基本的に柱や壁を極力取り壊さず、既存の建物を生かした作りとした。入り口部分の壁のみ撤去をおこなったが、そこ以外は基本構造のままとなっている。



05 足守遊学舎と連携した地域おこし

足守遊学舎と連携をとり、「遊・学・食」3つの分野の活動を促進させる施設として設計する。宿泊は「足守ゲストハウス吾妻」、食事は「足守キッチン」、遊びはサイクリング、宴会など人の集まりは「レンタルスペース旭」と、すべて足守を盛り上げるピースは揃ってきている。足守をさらに盛り上げるため、遊学舎と連携した活用を提案する。

学 皆が集まる街の本棚

足守遊学舎の「学」の部分と連動し、足守、岡山の歴史文化に触れられる「街の本棚」をつくる。ここでは足守を紹介する文庫や子どもたちに読んでもらう児童書、一般の文庫本や漫画などさまざまな本を揃える。



ここで好きな漫画を読むのもよし、歴史に触れ学ぶのもよし、文学に触れるリラクゼーションもよしの付近に図書館が少ない足守の人々が本に触れ学ぶ機会を創出する。



読書に関しては、住民たちとワークショップなどを経て決めていく。

遊 街の休憩所

時間割で入れる風呂

現在の建物の風呂は一般の住宅とは思えないほど広く、灯りがとても心地よい空間だ。そこで、足守遊学舎の遊の部分と連動し、サイクリングや、足守の街並みを歩き回り汗をかいいた観光客、また地域の人々にも時間によってレンタルできる風呂として開放する。宿泊せずとも疲れを感じその後の観光や生活を心地よいものとする。



遊んだ後はゆっくり寝転びたい。そんな願いを叶えられるスペースとして、クッションなどを完備した休憩所をつくる。寝転がったり、座って本棚の本を読んだり、次の予定を決めたり。また地域の子どもたちはここを遊び場として使う。活法は使え人それぞれだ。



食 地域の味を受け継ぐ街のキッチン

足守の方々で作る料理を若い世代に受け継ぐため、このキッチンを利用して料理教室や、メニューにアレンジしたい時に子どもたちに軽く料理を振る舞ったり気軽に使うことができるキッチンを開く。



オムライスやBARを開いている足守キッチンと連動し、地域の人々が気軽に周囲の人に料理を振る舞える、軽いつまみの要素を兼ね備えた空間を提案する。また、宿泊した際には宿泊者が自由に使えるキッチンにもなる。キッチンで提供された料理は、キッチン前のカウンター、横の休憩スペース、入口のカフェテラスで食べれる。

